

①2024年度指導方針とコーチングに関する施策（1/3）

校長 谷口 史雄

1. スクールの指導方針

- (1) 基本は全て「生徒の為に」。「**何事も安全が最優先**」。
- (2) 生徒にラグビーを楽しんでもらう。試合に負ければ生徒に悔しがってもらい、次にその反省点を活かせるように取り組みしてもらおう。
- (3) 当スクールのモットーは子どもたちに合ったラグビーを、レベルに応じて楽しむこと。ゲームでは勝ちにこだわらず、「全員レギュラー」の考えのもとに指導している。これは1987年の結成以来36年間、一貫して変わっていない（HPに記載）→基本的には試合に勝つ事を目標とするが、単なる勝利至上主義（例：1軍、2軍等を分ける、固定した生徒しか試合に出さない、試合に勝つ為だけの絞ったスキルしか教えない等）ではなく、あくまで全員参加により全力を出し、仲間と助けあい、勝利を目指す。
- (4) 毎年、高学年時に予定されているヒーローズカップへの出場は、従来と同じく関係する生徒の意思に基づき、コーチ間でもよく協議した上で出場を決める。年度の最終目標とはしない。
- (5) ラグビーを大好きになってもらい「**杉並でラグビーやって良かった、楽しかった。また中学で、そして高校でも続けたい**」と思ってもらう事を大きな目標とする。
- (6) カテゴリー制の継続。以前と比較すれば組織は大きく人数は増え、学年単位にて試合、練習を行う機会は増えているが、カテゴリーで一緒に出来るところは一緒に行く。理由は先輩、後輩の人間関係はラグビーに限らず生徒達にとっては今後続くことであり、ラグビーの場合、その人間関係はとても重要であり、コーチ同士の人間関係も重要であると考え。
- (7) **杉並らしさ**（別添資料ご参照）を常に大事に意識しながら活動する。
- (8) ラグビーの5憲章「品位・情熱・結束・規律・尊重」を常に意識して活動する。

①2024年度指導方針とコーチングに関する施策（2/3）

2. コーチングに関する目的、心得、施策(順不同)

(1) 基礎体力、基礎プレーの習得

小学部では中学進学以降の色々な応用にも対応できる基礎体力、基礎プレーを身に付ける。(基礎体力、基礎プレーとはあくまで試合で活かせるもの)

(2) ラーマン、ラガールとしてラグビーの5 憲章、そしてラグビー精神に基づいた態度、姿勢を習得する

①元気な大きな声でグラウンド、コーチ、仲間、保護者、相手チーム等に挨拶する。

②時間を守る（キックオフは絶対に守らなければいけない。待ってこない）

その他、社会生活の基本である常識的なマナーを身に付ける。

(3) 基本的にプレーヤーズセンタードなコーチングを意識する。

(4) 大会に応じた、または杉並自身で取り決めたサイレントマナーの継続。

(5) 活動においてコーチは自分の子供だけではなく、担当するカテゴリの生徒全員に平等にコーチングする。従ってコーチングに必要な資格を出来るだけ習得する。コーチ、レフリー、セーフティーアシスタント資格の取得、ブラッシュアップ。セーフティーアシスタントは全員が夏合宿までには取得する事を目標とする。活動中は コーチと生徒の関係（親子関係ではない）として接する。

①2024年度指導方針とコーチングに関する施策（3/3）

- (6) 活動の始まりのコーチMTGは重要な事を話す機会、活動前の当日のグラウンド使用上のルール、AED、トイレ、危険場所等の安全面、目的や心合わせの他、極めて重要な事項を話しているため遅れない。コミュニケーションの点からも必要。

コーチは愛する生徒達の活動の為、グラウンド内外問わずMTG等のコーチ間のコミュニケーションを大事にする。内容、状況によっては、とことん議論する。

- (7) 生徒を注意する場合、状況を考え解決させることがコーチとして最優先することで、単なる頭ごなし*に注意することは厳禁

*例；なんでできないのか、もうやめれば、バカ等々・・・

- (8) 安全対策の観点から昨年度以前からの継続事項

医師の御意見も踏まえ、お菓子に限らず食べ物をグラウンドで大人から子供、また子供から子供に渡す事は、食物アレルギーの子供がいて事故に繋がる可能性があるため止めている。これからの時期、熱中症対策の塩分タブレット（アレルギー反応が出るゼラチンを含むものあり）に関しても、各自で用意して摂取する。危険回避の点から実施。

②「杉並らしさ」とは（1/2）

校長 谷口 史雄

（順不同）

1. 兎に角、安全を最優先としている。
2. 基礎プレーを最も大切にする。
3. あくまで主体は、生徒が楽しむ、悔しがり、そして次に繋げる事を大切にする。
コーチも活動を通じ、ラグビーに出来る限り深く関わって頂く
4. 勝利至上主義ではない。
勝ちに行く姿勢は持つが、決して選ばれた選手によるものではなく、あくまで全員参加により全力を尽くし、仲間を思い助け合い勝利を目指す。
5. 自由、温かい、アットホーム的（宮島校長の人柄）
6. あらゆる子供に居場所がある。学校とは違った支えになるものがある。
7. 国籍や身長が低い、足が遅い等身体的な事は全く関係ない。
8. 生徒の入校希望は全員歓迎。コーチも希望の方は同様に歓迎。
コーチも生徒の様々な活動を通じて体験があり、成長、感動を共にして、ラグビーをより好きになって貰っている。

②「杉並らしさ」とは（2/2）

9. 例え自身がラグビー経験がなくても、生徒達のための重要なサポート、役割が沢山ある

スキル面でだけでなく、メンタル面でのサポート。チームとして一つになるための機会づくり。試合や練習のビデオを撮る、スクールが円滑に活動するための運営の仕事（総務や会計、他スクールとの交流の企画）など。そうした活動を通じて、生徒だけでなくコーチも関わりを深めていく

10. コーチングに関しては必要最低限な事だけを約束事として、基礎を大切にしながら

あまり約束事を多く決めないで、コーチ間によく検討、協議の上、運営している

原則は自由に考えてもらう（監督、HCのスタッフから多くを指示しない）

11. 個々の生徒に応じて、丁寧に教えている事、大切にしている

12. 保護者（父親）が経験の有無を問わず、希望する方がコーチになる自由な体制の為、

コーチと保護者間の垣根も低い

13. 全てはコーチの協議体制で活動を行っている

14. OB、OGの卒業生が色々なピッチで活躍しており、オフにはグラウンドに来てくれる

スクール愛がある。ホームに戻って来てくれる文化がある

15. 活動中に高学年がスクールのリーダーとして、中学年、低学年、幼児のサポートをする場面がある

